

江戸で泣く――。

江戸の 面影

The Nostalgic Images of Edo

浮世絵は
何を
描いてきたのか
プレスリリース

2014年1月25日(土)～3月2日(日)

開館時間: 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) *入場受付は開館前30分まで

休館日: 2月3日(月)および2月10日(月)

観覧料: 一般 1000円(800円)、大学生 700円(560円)

*小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

()内は前売り、団体20名以上、市内にお住まいの65歳以上の方の方針全

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(1月19日まで)、およびオンラインチケット(Lコード:57689)。

セブンイレブン(セブンコード:1026-770)、「千葉市立美術館」千葉みなと駅、「千葉駅」「船橋駅」「千葉台駅」の窓口(3月2日まで)にて販売。

ごひいき割引: 本展チケット(有料) 半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料2割引

主催: 千葉市美術館、東京新聞 企画協力: マンゴスティン

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-0733 千葉市中央区中央3-10-8 Tel.043-221-2311(代) <http://www.ccma-net.jp>



展覧会概要

江戸で、泣く——。

太平の世—その繁栄を象徴するかのよう江戸文化の中心に花開いた浮世絵は、流行風俗を描いて当時の人々の関心を引き、高度な木版画技法＝錦絵によって安価に広く普及しました。大衆を享受者に巻き込んだ、世界でも稀なこの芸術が、現代にまで生き生きと伝えてくれる江戸の姿を、我々はどのように理解するべきなのでしょう。

この展覧会は、幕末～明治初期に来日した外国人達の日本旅行記や、江戸時代の狂歌や随筆の中の言葉をきっかけに、浮世絵が表現してきた事象を丁寧に解き明かし、その理解を深めようとするものです。歌舞伎、遊里、岡場所の芸者、江戸名所、娘たちのおしゃれなど、浮世絵は江戸という特別な都市に育まれた美意識や文化を余すところなく伝え、今では失われつつある日本の美德のありかを思い起こさせてくれようとしているようです。江戸時代中・後期の優品約 250 点を通して、浮世絵が描いてきた江戸の美の本質に迫ります。

＊会期中に一部展示替えがございます。

- 会期 2014年1月25日(土)～3月2日(日)
- 会場 千葉市美術館
- 主催 千葉市美術館、東京新聞
- 企画協力 マンゴスティン
- 開館時間 10:00～18:00 金・土曜日 10:00～20:00 ＊入場受付は閉館の30分前まで
- 休館日 2月3日(月)・10日(月)
- 観覧料 一般 1000円(800円) 大学生 700円(560)円

＊小・中・高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

＊()内は前売り、団体20名以上、および市内にお住まいの65歳以上の方の料金

＊前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(1月19日まで)、ローソンチケット[Lコード:37849]、セブンイレブン[セブンコード:026-779]

および、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口(3月2日まで)にて販売

ごひいき割引

本展チケット(有料)半券
のご提示で、会期中2回目
以降の観覧料2割引

見どころ

◎ 展示構成 (予定)

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------|---------------------|
| 第一章 吉原の粋 | 第三章 江戸娘の闊達さ | 第六章 愛しき日常—子どものパラダイス |
| 第二章 江戸の盛り場 岡場所の興隆
—橋町の踊り子と辰巳芸者 | 第四章 歌舞伎への熱狂と団十郎最嵐 | 第七章 花を愛でる人々 |
| | 第五章 江戸っ子の好奇心 | 第八章 富士の絶景 |

◎ 浮世絵、江戸を知る入門編！

大都市・江戸を知るには、当時の流行をあますことなく伝える浮世絵を見るのが最適です。浮世絵は現在の新聞、ファッション誌、ワイドショーなど様々なメディアとしての機能をそなえつつ、江戸っ子たちの独特の美意識の粋を集めた芸術でした。本展では浮世絵にとって重要な8つ(予定)のテーマで、浮世絵が描いてきた江戸を解き明かします。

◎ 北斎、広重、歌麿、春信…スター浮世絵師が勢揃い！

浮世絵といえば誰もが思い浮かべる、葛飾北斎、歌川広重など有名な浮世絵師の作品はもちろんのこと、明治時代的小林清親や外国人版画家のヘレン・ハイドまで浮世絵の世界を網羅します。また、錦絵だけではなく肉筆画、絵巻物、版本、珍しいものでは絵馬まで展示いたします。

◎ 海外からみた当時の日本を知る！

幕末から明治時代にかけて、エドワード・モース(1838-1925)やハインリッヒ・シュリーマン(1822-90)、イザベラ・バード(1831-1904)ら多くの外国人が日本を訪れました。彼らは、江戸っ子たちの好奇心豊かな様子や娘たちの華やかさ、子どもを愛する人々のまなざしに驚嘆し、旅行記などを残しています。彼らの言葉を引用しながら浮世絵を紹介することで、当時の日本の情景をより深く知ることができるでしょう。

しかしながら、いまや私がいとしさを覚えはじめている国よ、
この進歩はほんとうに進歩なのか？この文明はほんとうにお前のための文明なのか？(中略)

おお、神よ、この幸福な情景がいまや終わりを迎えようとしており、
西洋の人々が彼らの重大な悪徳を持ち込もうとしているように思われてならないのである。

ヘンリー・ヒュースケン(1832-61)『ヒュースケン日本日記』青木枝朗訳 岩波書店

関連企画

■ 講演会(事前申込制)

「浮世絵黄金期の諸相」

講師：内藤正人(慶應義塾大学教授)

2月8日(土)14:00より(13:30開場)

11階講堂にて／定員150名／聴講無料

【申込方法】

往復はがきに郵便番号、住所、電話番号、氏名、イベント名、参加人数(2名までお申込可)を明記の上、下記までお申し込みください。

***申込締切:1月29日(水)必着**

*1人1通まで。応募多数の場合は抽選となります。

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

千葉市美術館 イベント係

■ 市民美術講座

「江戸芸者と辰巳芸者」

2月15日(土)14:00より(13:30開場)

講師：田辺昌子(当館学芸課長)

11階講堂にて／先着150名／聴講無料

■ ギャラリートーク

担当学芸員による：1月29日(水)14:00より

ボランティアスタッフによる：

会期中の毎週水曜日(1月29日を除く)

*水曜日以外の平日の14:00にも開催する場合がございます。

*会場の混雑状況により中止となる場合がございます。

■ 特別企画

「結うころと美—江戸娘髪結いの実演」

解説：村田孝子(ポーラ文化研究所)

結髪師：林 照乃

2月16日(日)14:00～15:30(13:30開場)

11階講堂にて／観覧無料

* 会場の出入りは自由です(混雑状況によって入場を制限する場合がございます)

「錦絵摺の実演」

解説・実演：

公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団

2月23日(日)14:00～15:30(13:30開場)

11階講堂にて／観覧無料

* 会場の出入りは自由です(混雑状況によって入場を制限する場合がございます)



■ 美術館ボランティアスタッフによる

多色摺ワークショップ

1月25日(土) 10:30-12:00、13:30-15:00

1階エントランス／参加無料



記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

1月24日(金) 16:00より(1時間程度) 10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

同時開催

所蔵作品展

「画人たちの1万時間 ～写生、下絵、粉本類を中心に～」

江戸狩野派、江戸琳派、千葉ゆかりの日本画家の石井林響らの画人たちが自己確立のために奮闘した時間の痕跡を、近年の新収蔵作品・資料の写生帖、下絵、粉本などを中心にたどります。

※「江戸の面影」展をご観覧の方は無料



「田中抱二関連資料」
江戸時代～明治時代 個人蔵



■ 関連企画 市民美術講座

「画人たちの1万時間 — 狩野派・琳派の新資料紹介 —」

2月22日(土) / 14:00より(13:30開場)

講師：松尾知子(当館学芸員)

11階講堂にて／先着150名様／聴講無料

次回展予告

「第45回記念 千葉市民美術展覧会」 2014年3月8日(土)～3月28日(金)

市民芸術祭の一環として、千葉市美術協会会員および公募入選作品約1000点を、日本画・洋画・彫刻・工芸・書道・写真・グラフィックデザインの7部門に分けて展示します。(入場無料)



「光琳を慕う — 中村芳中」 2014年4月8日(火)～5月11日(日)

江戸時代後期に大坂を中心に活動した画家、中村芳中(？～1819)。南画風の山水や指頭画を描いた後、尾形光琳の画に傾倒し、たらし込みを駆使した作品を描くようになりました。享和2年(1802)には『光琳画譜』を出版し、ぼったりしたかたちのほほえましい作品を多く残しました。

本展では尾形光琳から中村芳中に至る琳派の画家、当時の大坂画壇の作品も併せて展示し、これまでの成果を踏まえて、中村芳中の世界に多角的に迫ります。



中村芳中 《白梅小禽図屏風》 細見美術館蔵

交通案内

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代) / FAX. 043-221-2316

<http://www.ccma-net.jp>

◎ JR 千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば ⑦ より大学病院行または南矢作行にて

「中央3丁目」下車徒歩約3分

・千葉都市モノレール県庁前方面行「葭川公園駅」下車徒歩約5分

◎ 京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎ 東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎ 千葉市中央区役所と同じ建物です

◎ 地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX にてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

江戸の面影 ― 浮世絵は何を描いてきたのか



1. 鈴木春信
《団子を持つ笠森おせん》
明和5-6年(1768-69)
個人蔵



4. 喜多川歌麿
《鞠と扇を持つ美人》
寛政8-9年(1796-97)頃
千葉市美術館蔵



2. 鳥居清長
《美南見十二候 六月》
天明4年(1784)頃
千葉市美術館蔵



5. 葛飾北斎
《百人一首うはか縁説
藤原道信朝臣》
天保5-7年(1834-36)頃
千葉市美術館蔵



3. 歌川国貞
《七代目市川團十郎の
矢の根五郎》
文政8年(1825)
成田山霊光館蔵



6. 栄里
《芸妓図》
寛政期(1789-1801)
板橋区立美術館蔵

「江戸の面影 ― 浮世絵は何を描いてきたのか」展
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

貴社名:	媒体名:
ご担当者名:	発行予定日:
TEL:	発行部数:
FAX:	定価:
Email:	掲載予定コーナー名等:
画像到着希望日: 月 日 時まで	画像の掲載サイズ (おおよそで結構です 例: 5cm 四方、など) :

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 鈴木春信 《団子を持つ笠森おせん》 明和 5-6年(1768-69) 個人蔵
2. 鳥居清長 《美南見十二候 六月》 天明 4 年(1784)頃 千葉市美術館蔵
3. 歌川国貞 《七代目市川団十郎の矢の根五郎》 文政 8 年(1825) 成田山霊光館蔵
4. 喜多川歌麿 《鞠と扇を持つ美人》 寛政8-9年(1796-97)頃 千葉市美術館蔵
5. 葛飾北斎 《百人一首うはか縁説 藤原道信朝臣》 天保 5-7 年 (1834-36) 頃 千葉市美術館蔵
6. 栄里 《芸妓図》 寛政期(1789-1801) 板橋区立美術館蔵

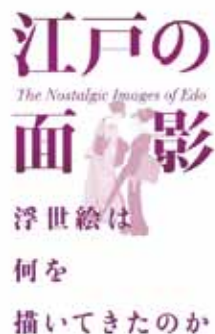
■ プレゼント用招待券申込
(ご希望の場合はチェックをつけてください)

☐ 5 組 10 名様分 希望します。
(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所:〒

問い合わせ先
千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
Tel. 043-221-2311 (代表) / 043-221-2313 (直通)
Fax. 043-221-2316
HP. <http://www.ccma-net.jp/>

担当学芸員: 田辺昌子
広報担当: 磯野 愛



記者レクチャー 参加申込書

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。
スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、
その後展示室をご覧ください。

1月24日(金) 16:00より(1時間程度) 10階会議室にて

*その後、8・7階展示室へご案内いたします

参加ご希望の方は下記にご記入の上、こちらの用紙を
FAX(043-221-2316) までご返信ください。

ご芳名

ご所属

お電話番号

E-mail address

問い合わせ先

広報担当 磯野 愛

Tel. 043-221-2313 (直通)

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

HP. <http://www.ccma-net.jp/>